

orero



駆け抜けていった夏

No.49 夏の思い出大特集！
ウツ+1、フィリピンへ！
子午線ウォーク、間近に迫る！！

Infomation ～イベント情報～

☆子午線ウォーク：10月23～24日

今年でもう11回目。神戸フリースクールの子もたちと交流しながら、明石～西脇（約65km）の道のりを歩いてみませんか？参加費7,000円。参加者募集中。（申込締切日：10月15日）

☆10月31日：『不登校から見える未来の子ども』13時～ チケットあります！

東京シュレ代表、奥地さんの講演会。参加費1000円。主催「明石不登校から考える会」

☆「ぼくらの不登校」被災地キャラバン①：11月1日

今年も始まります。スタートは西宮市立塩瀬公民館から。公民館の協力をいただいて行います。

10時～11時半。要申し込み。（西宮市立中央公民館0798-67-1567）

※「ぼくらの不登校」被災地キャラバンは、随時開催していきます。HP等でお知らせしますので、情報をご覧の際は、ぜひお越しください。

☆アートパークフェスタ開催決定！：来年1月28～31日。

神戸アートビレージセンターにて。詳しい内容は次回お知らせします。

カンパありがとうございました！

所 薫子
柴垣 六郎
森元 睦子
守屋 哲

安東 克明
羽下 大信
今福 三津枝

（順不同、敬称略）

郵便振込み

01120-9-81163
神戸フリースクール

メンタルフレンド派遣しまあ～す！

『心の友』…なんて大げさなものではないけれど、「不登校してて、ひとりで過ごしてるのがつまんな～い」って思っている子どもたちのもとへ遊びに行くおにいさん・おねえさんがフリースクールで待ってます！子どもたちの希望にあわせて、ピッタリの人を選びます。

顔合わせの上で決定しますから、ご安心を。

お問い合わせは、神戸フリースクールか

不登校ネットワーク兵庫(078-366-0367)まで。

ホームページ <http://www.freeshool.jp/friend/>

私は、時間と一緒に流れていく、はやりの音楽はあまり好きじゃなくて、ジャンルを問わず、共感できる音楽、心が揺り動かされる音楽を選んできいている。最近、CDケースの奥の方から、久しぶりに尾崎豊の『Seventeen's Map』を手にとった。小6のとき、お年玉で買ったばかりのアルバム。その頃は『15の夜のメロデー』が好きで、何も考えず聴いていたと思う。でも、成長するにつれて、彼の精神世界に入りこみ、その深い孤独や苦しみに共感するようになった。そして、自分をはげますかのように前向きな歌詞の曲に、私もはげまされていく。ラストの『僕が僕であるために』で、泣きたくなるくらいの時によろしい曲で、その頃のことをはっきりと思い出せたからかもしれない。

「僕が僕であるために勝ち続けなきゃならない。正しいものは何なのか、それがこの胸に解るまで」その言葉を、何度かかみしめ、自分がどう生きていくのか、どう生きていきたいのか、それが心の中にしつかりもてるようになるまで、がんばっていた。強くなろう、と、自分を奮い立たせていた。

今は、大学というたくさんの人が集まる場所について、様々な価値観がぶつかりあう中で、時々、何が正しいのかを見失いそうになる。他人のイタミや苦しみに無関心な、うかれた学生たちの中で、やりきれない想いを感じることもある。そして、巨大なうずのまわって、自分が消えてしまいうさになる。そんな今だからよく、感慨深かったのかも知れない。何があってもゆらぐことのない強い心でいられたら自分自身をもっとちゃんとつなぎとめておけるのに。そしたら、「わたしはわたし」でもっとちゃんと胸をはって、生きていける。だから、弱い自分にまけないように、又、がんばっていいと思う。

京都かゝしがみ

木村 蘭

H.P - WWW.FREESCHOOL.JP/KFS

MAIL - TOKASYA@HOTMAIL.COM

お問い合わせ・TEL & FAX 078-366-0333

住所・兵庫県 神戸市 中央区 下山手通 8丁目 8-10

KFS

KOBE FREE SCHOOL



バケツやスコップをぶらさげて参加、ぼくらスタッフはヘッピリ腰で二輪車を押している。僕らは押しのけるようにして屈強な男たちが現れ、交代して砂利を運び、あつという間に「歩ける道路」が完成した。台風とスコールと汗だらけのツアーだったが、村人との熱い暑い交流にアジアを強く感じて帰国した。

- 考える種 -

私の子ども達が学校に合わなくて苦しんだ時を過ごした後、それなりに折り合いのつけ方を見つけ、自分らしく生きていけるようになり、今はもう、学校という枠から離れ自由に生活しているので、私も当時のしんどかった事なんかは薄らいでしまっている。そういうしんどかった時期、たくさんの本と心通じる友達のおかげで、相談所やカウンセリングのお世話になることもなくやってこられた。はっきり「登校拒否についての本」という意味で呼んだのは、若林実さんの「エジソンも不登校児だった」という本。その後は、もう私のいつもの読書スタイルで雪崩のごとく不登校に関する本という事だけにとどまらず、教育、心理、社会、子供の権利について、差別問題と、どんどんジャンルを広げて読みまくった。そうだよ、それでいいんだよ。と、後押ししてくれるような本にいっぱい出会えて、読んだ後、すごい幸せで、ますます自信を持ってがんばってこられた。渡辺位さんや奥地さんもそうだけど、どの人も初めから子どもの状態を理解し、受け入れたのではなく、葛藤を繰り返しながら本当に子どもの事を思うからこそ、本当に子どもの訴える事に気がついていったという、変わっていく自分の姿を隠すことなく言われているのはすごく共感を覚えられた。教育関連の棚ではない分野でお勧めは

清水 義範「今どきの教育を考えるヒント」 西原 理恵子「晴れた日は学校を休んで」

五味 太郎「大人の問題 I, II」 石坂 啓「学校に行かなければ死なずにすんだ子ども達」などおもしろく読めて深い内容です。子ども達の育った今でも、私は自分自身の考え方をしっかり確かめるため、自分のために、不登校新聞(今はFonte)はもちろん、不登校に関する本は読み続けています。

大石 寿子

ちひろのまなざし

(ち)

ちひろ美術館に行ってきた。

復元された彼女の書斎を見ていると、なぜかウルウルきてしまった。彼女はこの部屋の中で、あどけない生き生きとしたこどもの姿を描き、また、戦火のなかにいる悲しそうな顔をしているこどもたちの姿を描いていたのだ。どの絵もこども。だけど、ひとりひとりの表情は同じではない。どんな思いでこどもたちを描いてきたのだろうか。こどもたちをどんな気持ちで見つめていたのだろうか。どんなふうに世界の苦しんでいるこどもたちを思っていたのだろうか。今も生きていたなら、彼女はどんな絵を描いているだろう。今もお世界のどこかで苦しんでいるこどもがいる。彼女はそれをきっと悲しむに違いない。そう思うと、私が悲しくなった。

フィリピン・スタディー ツアーを終えて

田辺 克之

フィリピンを訪れるのは4度目だ。毎年子どもたち数名とスタッフがこのツアーに参加している。フィリピンのマクパパラヤオという村で長年ボランティア活動を続けている jpcorn という市民グループの代表桑原さんのグループに、今年は神戸フリースクールのスタッフ3名とフリースクールの中学生が1人加わって、総勢9名のなごやかなツアーであった。

マニラ空港を出ると、あの土の焼けたような匂いと熱気がガンと僕らの前にたちはだかる。僕らは頭のでっぺんから足先まで、熱帯のシャワーを浴びる。空港から迎えの車が市内にむけて走りだす。市内に入ると喧騒と排気ガスでごった返し、あふれる車の隙間をすり抜けるように

物売りの少年が現れては消えていく。目をキラキラさせて飛び跳ねるストリートチルドレンたちだ。35年前はじめて訪れたときとまーなはすこしも変わっていない。

7000以上の島からなるフィリピンのルソン島の中心部マニラから車で4時間ほどのところにある村に着いたのはもう陽が沈みかけるころだった。空港でトランプがあり、すこし手間取ったこともあつて、もうくたくた。でも村人の歓迎の笑顔に出会ふと、うれしさがこみ上げてきて、元気がもどってくる。「マガンダン・ガビ(こんばんは)」をくりかえし、顔・顔・顔と握手する。

失業率も高く、家でブラブラしている男たちをよく見かける。でもかれらの表情は明るく、訪問者にはせいいっぱいのもてなしを提供してくれる。部屋はこざっぱり整理されていて、寝床には蚊帳が吊るされて、快適とはいえないまでも、それほど不自由はない。強いというならば、便座のない洋式トイレと風呂がないのがつらい。井戸水をくんでシャワーするのだが、何日かいると、「ゆつくりお湯につかりたいなあ」と風呂がなつかしくなる。そんなことをいうのはええ歳をしたばかりの若者かもしれない。まあとにかく親切で、かまひすぎるくらいに干渉されるのはちよと驚くがこれもこの村流のもてなし方なのだろう。

3年前この村を訪れた際、近くの高校を訪問し、授業参観をさせてもらったが、直後に激しいスコールがあり、渡り廊下のトユルが穴だらけで、その下をびしょ濡れになりながら生徒が行きかうのを目にし

て、校長室で待機しているとき、つい「僕が次に来るとき、トユルの修理をします。」と調子のいいことを言ってしまった。校長はそのことをしっかり覚えていて、去年桑原さんが村に行つたとき、校長から「あの人は来ませぬね。」と催促されたそう、今回、急遽フィリピン行きを決めた次第。村に着いた翌日、ぼくらはすでに工事が終わりをかけていたトユルのペンキ塗りを全校生徒らが見守る中、汗だらけになって完了させた。次の日、村のパーティーに校長がやってきて、丁寧な挨拶と感謝状までいただいた。早朝より泥だらけの「どこ歩くんねん」という道路の補修に挑戦。ポケットマネーでトラック3杯の砂利を買い求め(わずか6千円)、近所のブラブラしている男たちに声をかけて着工。村おこしと言つたらおかげさだが、変わり者の日本人が道路工事を始めたというので、奥さん連中も子どもたちまで手に

はじめての フライピンで：

屋簷 麻里

8月23日から31日まで、フライピンに行きました。マグパパラヤオ村でホームステイをしている時は村の人達がすごく優しくしてくれました。この村で3日間ホームステイをしながら、高校とかブタ小屋とか大学を訪問して、いろいろな事をやらせてもらいました。あと、村の人達が2日連続でパーティーをやってくれました。1回目はお別れパーティーをやりました。そのお別れパーティーの後、ホームステイ先のお姉さんとバンドの話をし、盛り上がりすぎた(?)事が嬉しかったです。フライピンで一番苦労した事は英語でのコミュニケーションで、私は何を話せばいいのか分からず黙っている事が多かったのですが、この事はすごく嬉しかったです。

印象深い出来事になりました。次の日の朝に今度はバギオに行って、STAC5という障害児のリハビリセンターを訪問して、みんなでゲームをやったり、障害児の家庭を訪問したり、いろいろな所に行きました。夜は夜行バスでマニラに行つて、動物園とかに行つたりして観光しました。

そして、本当は30日に帰国する予定だったのに、台風の影響で1日延期になったので31日に帰国しました。私は初めてのフライピンだったのでカルチャーショックを受けたり、コミュニケーションが難しく黙つてたらどこに行つてもシャイとかサイレントとか言われました。その事は初めは正直、嫌だったけど、次第に慣れてきて、気にならなくなりました(笑)。でも、自分の英語力の無さを痛感しました。

かくいろいろなあつたけど、充実した日々を過ごせて、いろいろな所に行つて、見て、聞いて、感じた事はとてもいい経験になりました!!



「フライピン」

とっし

海はとても泳げる状況じゃなかったたので水着をつかうことなく終わってしまった。：。台風が3つづちあつてずっと雨が降り続きマグパパラヤオ村は水没し川の増水で道に大量の水。：。車が一台ぎせいになりました。：。昨年も行きましたが今回は酷かった。しかし帰ってきてみんなに「どうやった?」と聞かれれば「一昨年より楽しかった」と答えます。天気は最悪だったが集まった人々

との行動は最高に楽しかった。1週間がとても長く終わつてみれば短く感じました。

村では昼に道路工事、夜は村の人々とダンスやゲーム、食事をしたりして楽しく充実した時間をすごせました。

バギオでは障害者センターのスタッフの人たちと一緒に町をめぐりディナーを楽しみました。今回のツアーと前回のツアーのちがいは、たくさん現地の人々としやべつたり遊んだりというのが個人的に多かった事、ツアーに参加した人のキャラがとても個性的でおもしろかった事。この2つがぼくの中でとても思い出深い事となりました。

そしてこの旅でぼくに足りなくてこれがあれば旅が何倍も楽しくなるなあとと思うのは「英語力」です。これがもつとあればもっと楽しくなつただろう、でもそれがなくてもあつてもとても楽しい旅なのでもっと多くの人に体験してほしいなと思います。

東京駅物語

あきら

「あ、東京駅へ行く。」と思ったのは、午前3時の事だった。そしてかばんにCDウォークマンと財布を入れてせつと家を4時には出た。そしてJRに乗った。乗ったといつても電車で東京へ行った事は無かつたのでとりあえず、普通電車の高槻行きに乗った。そして結局大阪駅で快速米原行きに乗り換ええたのだが、その乗り換えによつて今日の僕の最大の出来事が僕にふりかかってくるのであった。それは電車が茨木駅(大阪)に着いた時の事だった。電車の扉が開いた瞬間降りようとする乗客を無視して、5人のおばちゃんが無理やり電車の中に入ってきた。それまではよかったのだが、おばちゃん一人が僕が座っていた4人掛けの座席を見つけて「ちよつとあんた達あそこ」三つ席が空いてるから、年寄り順に座つていき

ましよ。というわけで、私が一番年寄りなので私座らしてもらうわね。」ちよつと奥さんずるいわよ。」新喜劇を見ているようだった。そして僕は三人のおばちゃんに囲まれてしまった。しばらく黙つておばちゃん達の話を聞いてると、このおばちゃん達は富士に泊旅行へ行くようだった。そしてそのままおばちゃん達の話を聞いてると、急に「ちよつと僕。」瞬ドキッとして「何ですか?」と4時間ぶりに声を出した。「僕、何年生?」と聞かれたので「二応高校二年生です。」と答えると、「あらあら、かわい顔してるからまだ中学生かと思つたわ。」少しうれしかった。

そしてこのおばちゃん達と仲良くなり、豊橋駅では幕の内弁当と地元名産のあんこのお菓子を貰つてもらつた。そしておばちゃん達とは富士駅で別れ、10時間かけてやつと東京駅に着いた。……続く

☆母と子の島

の報告書 ☆

みかぶ

フリースクールに来てもう一年以上たつたけど、一回も原稿を書いたことがないみかぶです。

でも、初めまして(笑)

8月23日、姫路港から遊園地のゴンドラみたいに乗って、内蔵が口から飛び出るほどの思いをして、やつと母と子の島に辿り着きました。

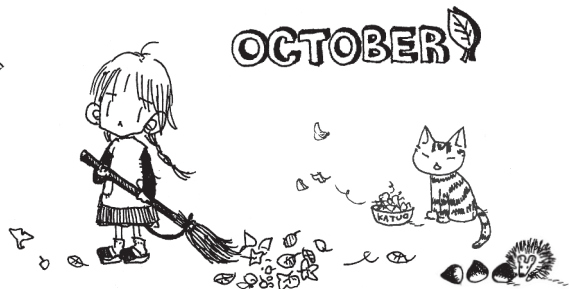
「二日目は台風で天候に恵まれず、ちよつとテンション落ち気味だったけど、バーベQを食べたのでハッピー!」

それから、台風の都合でテントに泊まれず、避難所へ直行したのはおもしろかつたです。☆お風呂も行けず、代わりに自然のシャワーを浴びました(冷水)。三日目は雨が降る代わりに風がすごかった。砂浜にいと砂がビシビシ体

あたつて痛かった(泣)でも気合でみんな泳いでました(笑)夜は星がとてもキレイでした。本当にこの島へ来て良かったと思います。

いつも口先ばかりの実行委員三人組は今回めっちゃめっちゃ頑張りました☆結構大変なんだと思います。

OCTOBER



「あの人の秘密」

大槻 未来

私の同級生のあの人は、たまに左うでの内側をおさえている。「どうしたの？」とたずねると必ず、「なんでもない。」と答えるのだ。

ある時、私は好奇心に負けて、あの人を尾行しようときめた。

でも……

そう思っているのがわかつていくようにあの人は早速するのだ。必ず左手をおさえている時に……あの人にする質問をかえてみよう。左うでをおさえている時に、「どうしたのそのうで」と聞いてみたい。

そして、その時が来た。あの人が左うでをおさえている。「どつどつしたのそのうで。」
「おどろいたように聞いてみた。」
「みつ見えるの……このはく……。」

「はく？」
「見えているのか聞いているの！」
「見えてるよ。」

「言うしかなかった。」
「そう。じゃあ、場所をかせようか。」

教室を出て、ちがう教室に入った。

「早速しなくて大丈夫なの？」

と聞くと、いきなり左うでから、白い龍が出てきた。

「白龍？この人本当にあなたが、見えているの？」

白龍といわれた龍は、

「今は……。」

と答えた。

「そう。しかたがないわね。」

と言って、私にむかってぶつぶつ言いだした。こんなつもりじゃなかったのにな……。

いきなりすごい光があたりをてらした。だんだん明るさがましく……。

貴重な時間

よつぴ

フリースクールに入りもうすぐ1年が経とうとしています。入りたての時と比べると、自然体に楽に居れるようになり、とても不思議な感じです。フリースクールを通してたくさん出会いがあるせいか最近は今、目の前にいる人と過ごす時間はすごく貴重だと感じるようになりました。しなくちゃいけないしやなくやりたいと思える事が増え、レポートも素直にそう思えたらええのにつて感じです。

ぼちぼちがんばります。



これからよろしく

あにき

みなさんはじめまして！9月からスタッフとしてお世話になることになりました。あにきこと今村です。この原稿を書いている時点でフリースクールにやってきました。まだ2週間。なんだかもっと長い間お世話になっていくような感覚で毎日ここにきています。なんせ毎日楽しくて！面接で田辺先生とちくりんにお話していただいた時は、「は……こんな考え方もあるのか。」って感じでしたね。だか衝撃的でした。いまはだんだんとそれが普通の感覚になってきつつあります(笑)。

僕は高校はいいや通い、留年すれすれの欠席日数、無気力な高校生活を送っていました。授業時間以外は活動的でしたが、その後なんとなく進学し就職してふつと気付けば29歳。周りの雰囲気になされてなんとなく……ま

「まぶしいでしょうすぐなれるから、まっけて……。」
そんなことわかれても……。

左うでの内側がすごくいたい。

「バシツッ」という音とともに、光が消えた。でも左うではやけるようにいたかった。

「あなたは、白龍との約束を守ってね。」

意味がわからない。「あなたは、私の次の白龍の持ちぬしになったから。」

こんなつもりじゃなかったのに、少しの好奇心のせいで、こんな事になってしまった。

人の秘密は、さぐるべからず。

これを読んでいるあなたも、好奇心に負けたら、こうなるかもしれませんよ……。



来てしまいました。今出た結論はもつとちゃんと自分でよく考えてほんとにしたいことをしないとけないな……こととあり葉で書いてしまおうとありきたりになってしまいました。言

けど、でも大事な……ことだと思えます。それと、楽しんですることは自分自身の成長につながるしよい思い出として記憶にも残ります。いやいややってくるなかにいい思い出は作れます。僕は30年生きてきてこの結論にいきついたけど、出来ることならもつとはやくきつておきたかったなとは思っています。

つまらないと思いつながら学校に通うより、フリースクールでいきいきと楽しく充実した生活を送るなかで、多くの体験多くの人に会おうことのほうが、いい時間を過ごせると思います。そして僕自身もまだこれからだと思っています。成長途上だと思つています。心の中は今でも19歳です。長いよう

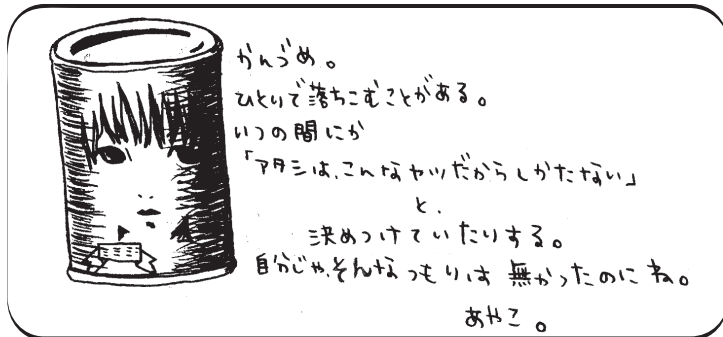
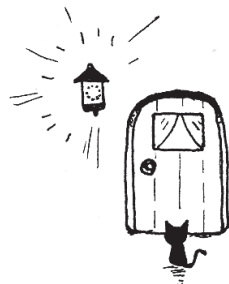
で短い2月までの時間を大切に過ごしたいと思つていますので、みなさまどうぞよろしく。

雑感

スタッフよもやま話

田辺 克之

らんちゃんとおグが京都の大学に行き、ケンタと水本はフイリピンに行つてしまつて、フリースクールの働き手が少なくなつてしまつたけれど、18歳になったトッシーが子どもスタッフに昇格し、新人今村くんが加わり、ちくりんとテラがはりきつていて、また明石はちーちゃんがいいて、やうと落ち着いてきた感じですよ。後半からはキラパン、稲刈り、子午線ウォーク、メンタルフレンド養成講座、アートパークフェスタなどなど、忙しい季節の到来です。いよいよフリースクールも来年は15周年を迎えるため、記念集会か祭典などできたらいいなと考えています。



かんづめ。
ひとりで落ちこもることがある。
いつの間にか
「ママは、こんなヤリだからしかたない」と。
決めつけていたりする。
自分じゃそんなつもりは、無かったのにね。
あはこ。